

## ○実施概要

### 釜石市「復興スタジアム整備事業」

～ 釜石鶴住居復興スタジアムの経営について ～

#### 事業概要

釜石市は、2019年にアジアで初開催されるラグビーワールドカップ2019日本大会の復興のシンボル、そして将来を担う子どもたちに夢と希望と勇気を与えるため開催都市に立候補し2015年3月に開催都市に選ばれました。国内12の開催都市の中で、唯一スタジアム会場を持たなかった同市は、東日本大震災からの復興を目指して「釜石鶴住居復興スタジアム」を新たに整備しました。

#### 整備概要

- 収容人数 6,000席(ワールドカップ開催時16,000席)
- スタジオ整備
  - 管理事務棟：鉄骨造地上1階建 床面積587.15㎡
  - 1階：シャワー室、更衣室、医務室、レフリースタジアム、トイレ
  - やぐら棟：鉄骨造 築造面積586.40㎡
  - 2階：テラス 3階：展望デッキ
  - 駐車場：合計244台（東側142台、西側102台）
- グラウンド メイングラウンド（天然芝）約11,000㎡  
サブグラウンド 約10,000㎡
- 整備事業費 48億7,800万円





## ○視察概要

### 大槌町「震災復興事業

～ 震災からの復興状況について ～

#### 復興計画の策定

平成23年3月11日、東日本大震災により大槌町も大きな被害を被り、これにより死者・行方不明者（震災関連死を含む）は、町の人口の約8.0%に当たる1,286人に上りました。

また、4,375棟の家屋が被害を受けるとともに、産業関連施設と公共施設の被害を合わせた被害額は796億円になりました。

避難者は町内38ヶ所の避難所に身を寄せ、平成23年8月には48団地2,106戸の応急仮設住宅での生活に移行しました。

そして、平成23年9月に町民の暮らしの安定・向上を図ることを目標とした「大槌町災害復興基本条例」を制定しました。

この条例を基に各地域の復興協議会から挙げられたまちづくりの方向性を尊重し、住民との合意形成を図りながら平成23年12月に復興計画を策定しました。

#### 今後の取組み

東日本大震災から8年が経過する平成30年度末には、復興計画が終了を迎えることとなります。計画期間中は、町民の暮らしの再建と共に、各種公共・公益施設の整備をはじめ、復興を先導する拠点となる「復興拠点エリア」の整備も進んできました。

このように基盤整備の進捗にあわせ生活再建が進む中、復興事業の本格化や全国的な景気回復に伴う建設需要の増加等により建築費や労務費、資材費等が高騰することから、住宅再建費用の増大を危惧しております。

平成31年度以降は、復興計画の後継である総合計画で引き続き復興に向けた切れ目のない取組みが必要とされています。



## ○視察概要

### 仙台市「地下鉄東西線事業」

～ 市営地下鉄の運営について ～

#### 整備指針

仙台市は、商業業務的機能をはじめ、都市機能の集積とともに、人々の日常的な交流の広域化が進み東北地方の中核都市として発展を続けている。さらに住宅地開発などによる急激な市街地の拡大等郊外部と都心を結ぶ交通需要が大きく増加した。

このため仙台市では、地下鉄南北線を整備し、鉄道利用圏域の拡大を図ってきたが、依然として南西部や南東部を中心に自動車利用の割合が多いことから幹線道路での慢性的な交通渋滞が生じている。

こうしたことから、平成10年3月に仙台市の基本計画において「軌道系交通機関を基軸とした集約型の都市構造への転換」という新しいまちづくり方針を決定し総合的な交通政策を進めている。

## 開業に向けて

東西線は、地下鉄南北線と一体となった骨格交通軸を形成し、仙台市内の不均衡な交通環境を改善するとともに、新たな都市構造を創出し、21世紀の仙台の発展には必要不可欠な路線であることから都市交通に関わる主要な施設として、八木山動物公園から仙台駅を經由して荒井に至る延長14kmの路線整備に取り組みました。

工事は、平成18年に工事を着手して9年後の平成27年12月6日に開業しました。

